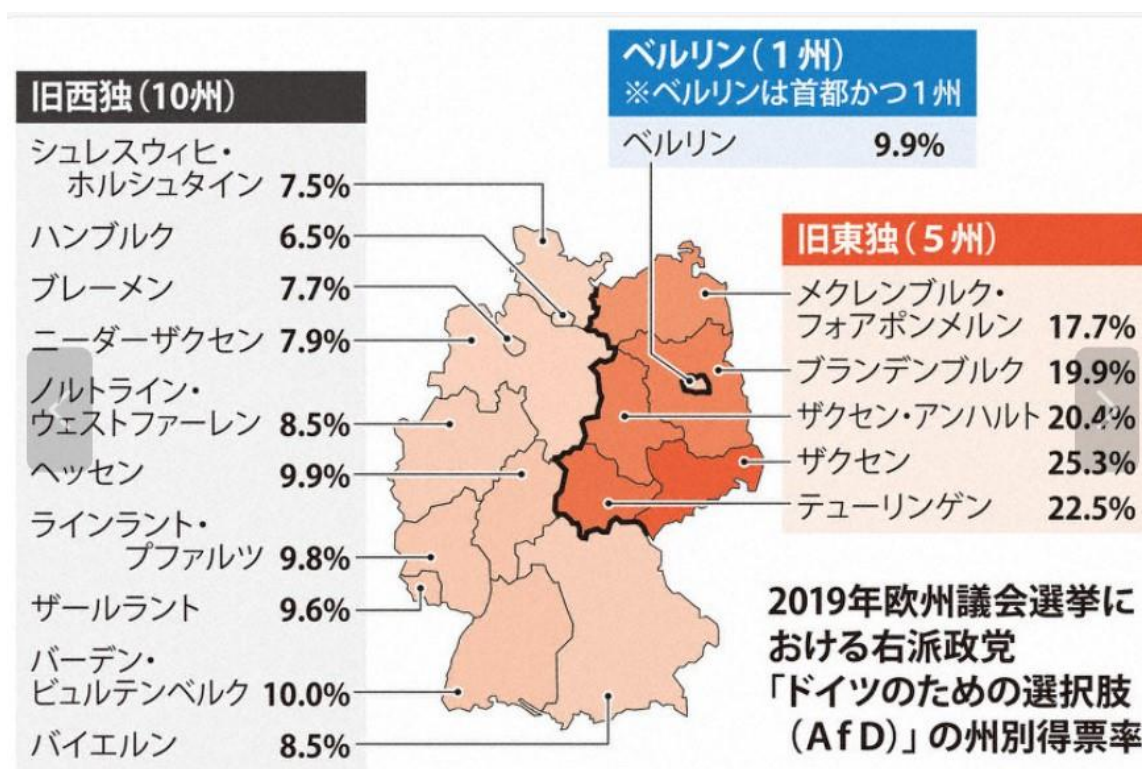


ドイツ州議会選挙（576号）

2024年 9月 石館

旧東ドイツ地域のザクセン州とチューリンゲン州で9月1日投開票された州議会選挙で、シュルツ首相の率いる中道左派のドイツ社会民主党（SPD）は敗北した。チューリンゲン州では極右政党“ドイツのための選択肢（AfD）が第一党を確保した。

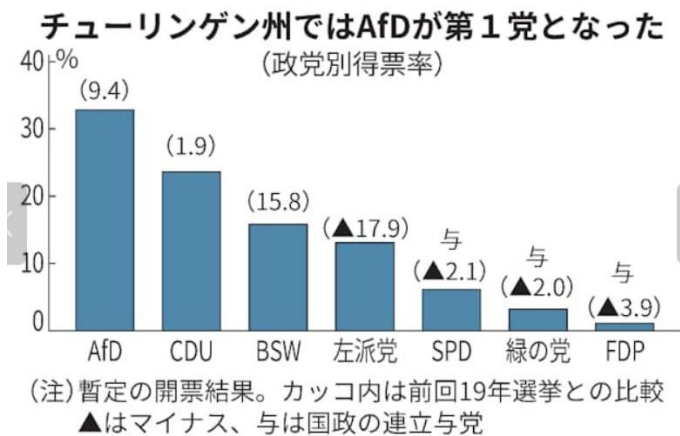


2019年の欧州議会選挙における右派政党（AfD）の州別得票率は旧西独に比べ旧東独の5州は2倍以上多い。今回のザクセン州とチューリンゲン州の州議会選挙では、この傾向を反映してか AfD はチューリンゲン州で第一党、ザクセン州では僅差で第2党となった。

ドイツ全体でも AfD の躍進が目立つが、何故旧東独の州が急激に躍進したのであろうか。ザクセン州の AfD 政権公約を読めばこの党の危うさが分かる。“モスクの建設禁止”や“イスラム団体の監視”で移民排斥をうたうだけではない。“男性と女性のカップルによる伝統的な家族像”が理想像と示し、性的少数者 (LGBT) などの権利を重んじる最近の流れに真っ向から反対する。

多文化主義を否定し、保守的な白人キリスト教徒を優遇すべきだとの思想が見え隠れする。歴史認識も逆回転させようと試みる。85年前の1939年、第二次世界大戦はドイツのポーランド侵略で始まった。

ドイツは戦時中の残虐行為について謝罪するだけでなく、事実関係を公文書などで徹底的に掘り起こし、次世代に伝えるという運動に官民挙げて取り組んできた。これを自虐史観だとして撤回を求め、外国人をナチス時代と同じように“虫けら”と呼んではばからない。



13年に AfD 結党当初は“反ユーロ”の色彩が濃かった同党だが年を追うごとに右傾化し、それに比例して支持を伸ばした。

何故旧東独地域でナショナリズム、つまり白人至上主義なのか。経済が思わしくないないからというのは説得力に欠ける。生活に不満があるなら低所得者支援を訴える政党に票を投じるはずだが、左翼の左派党は議席を大きく減らした。そもそも選挙のあった2州の失業率は約6%と、この10年で半減し、旧西独のブレーメン市(10%)より低い。



ドイツ極右AfDが躍進、東部2州の議会選挙 チューリンゲン州では ...

AfD のチューリンゲン州のトップヘッケ氏

注目すべきなのは過疎化が進んだ地域ほど AfD の支持率が高いという選挙結果だ。例えばチェコの国境に近い過疎地などでは得票率が4割に達した一方、首都ベルリンの通勤圏で旧西独からの移住者も

多い小都市ポツダムは1割未満にとどまる。つまりリベラル層が逃げ出し、保守的な有権者だけが残った地域で AfD が強いという傾向が見える。

戦後、旧東独地域は 3 回の大きな人口流失の波に見舞われた。まずは敗戦直後だ。ソ連軍が進駐してくると共産主義を嫌う人が旧西独地域に逃げた。次にベルリンの壁の建設直前の 1960 年前後に、手に職を持つ熟練工などが高給与と自由を求めて逃亡した。そして 1989 年の壁崩壊後は、チャンス을求めて若者が去った。その数は合計で 500 万人超とされる



ベルリンの壁崩壊を喜ぶ人たち

意欲のある人材がいなくなり、残された住民には“負け組”という敗北感が染みついた。鬱積した感情の矛先が外国人に向け

られるようになった。

まずナチス、その後は共産主義という二つの独裁体制に長年にわたって支配された後遺症も大きい。旧東独政府はソ連を盟主とした共産主義勢力がファシズムを打倒したとの立場を取り、共産思想が“ナチスを克服した”と結論付けた。旧西独とは対照的に周辺国への“過去への謝罪”を行わず、人種差別への反省は表面的なものに終始した。

多文化主義とは無縁だったため、共産圏の“兄弟国家”から外国人労働者として雇ったベトナム人は激しい差別に晒された。今も旧東独の過疎地では、有色人種に罵声を浴びせることはしばしば起きている。

危険な兆候は政界にもある。旧東独では AfD と連立政権色気を見せる保守系キリスト教民主同盟 (CDU) の政治家もいる。仮に CDU と AfD が組めばイメー

ジの悪化をもたらし、ドイツが欧州の政治リスクの震源地になってしまう。
8 月下旬に西部ゾーリンゲンで難民申請を出していたシリア人の男が無差別殺傷事件を起こしたことも反移民の AfD にとって追い風となった。今後はショルツ首相が政権浮揚に向けて有効な政策を打ち出せるであろうか。主義主張の異なる 3 党で構成する連立政権は足並みがそろわず、脱原発や経済対策、予算編成

などで判断が二転三転してきた。

総選挙にあたる連邦議会の選挙を25年9月に控え各党は首相候補の指名や政策立案を急ぐ。総選挙で旧東独の州ではさらに極右の票が伸びることが予想されるが、旧西独の州でもAfDの票は今10%前後だが15-20%位になる可能性もある。



連立3党の党首

左からベアボックス外相兼
緑の党党首、ショルツ首相
拳SPD党首、リントナー財
務相ケン自由党党首

この連立を組む3党とも政
策面で必ずしも足並みが揃

わず、また3党とも党勢が勢いを欠いている。今後政権運営の混乱が長引けば政権のレームダック化への懸念が浮上する。欧州経済やウクライナ支援の行方を左右するだけに、ドイツの政治リスクはEUの今後を左右しかねない。